

豊庄だより

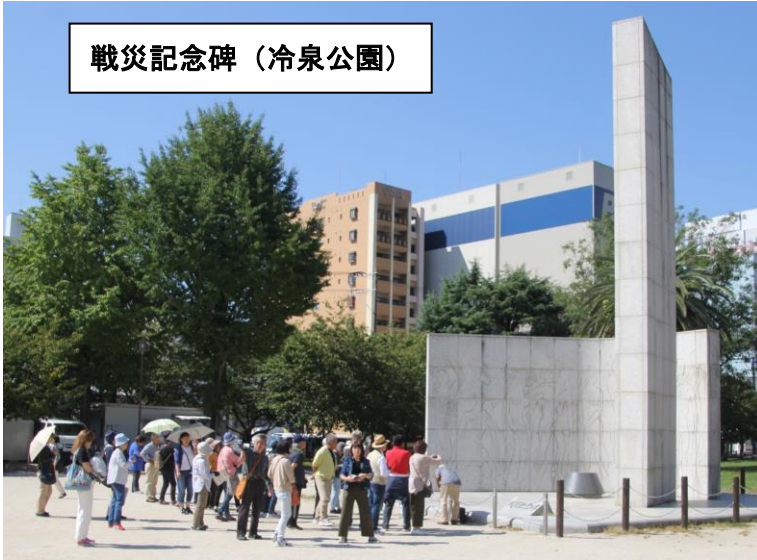


第 619 号 2020 年6月22日

今年の6月19日は、プロ野球の遅れた開幕に話題をさらわれてしまい、福岡大空襲のことは、すっかり小さくなってしまいました。これもコロナ禍のひとつと言ってしまうかもしれませんが、とても残念です。

福岡市早良区南庄2-26-13
社会福祉法人林生会豊庄保育園
園長 西尾 達

戦災記念碑（冷泉公園）



す。

今年は福岡大空襲から75年という節目の年です。例年であれば、福岡市が「市戦没者合同追悼式」、福岡市社会福祉協議会が「市戦災引揚死没者追悼式」を、それぞれ200人以上の遺族や市民が参列して行われていましたが、今年では中止。かわりに両者が合同で主催する「市戦没者追悼献花式」が市役所で行われました。参加者も市長など4人に限定、15分間という短時間での開催でした。

私もこの時期、学校にでかけ、児童・生徒に平和についてお話をすることが時々あったので

すが、今年は音沙汰が全くありませんでした。市内の小中学校での「福岡大空襲」についての平和学習がどれくらいのところで行われたのか心配です。

「福岡大空襲から75年」ということは、今年が「戦後75年」。5年前の「戦後70年」のときは、テレビや新聞などで大きく取り上げられていました。その内容もかなりの時間を掛けて作られた作品ばかりで今見ても良くできたものばかりです。話が少し脱線するかもしれませんが、5年とか10年といった単位で、「区切り」を付けることにどこか違和感があります（これは日本人特有のことではないと思いますが）。区切りには、一日は24時間、1年は12ヵ月といった単位もあります。否、そもそも戦争や平和・人権の問題を区切りごとに考えるというやり方自体に問題を感じます。「継続性がない」というか「その場限り」と批判するのは言い過ぎでしょうか。「区切り」だけでなく、毎年毎年の積み重ねが大事です。

私は早良区の飯倉校区人権尊重推進協議会のメンバーと人権・平和に関するフィールドワークをかれこれ20年近く行っています。県内外を問わず、様々なところに行きましたが、昨年は「福岡大空襲」をテーマにしました。福岡市内の博多区、中央区を歩きました。70年近く経てば、当時の



福岡連隊の碑（平和台）

の様子を残しているところは、事前に学習をして訪ねないと見つけ出すことはなかなかできませんでした。しかし、実際に訪ねてみると、とても1年間では終えるのは無理という意見が多く出され、（昨年から）今年も継続していこうと計画を立てていました。さて、実現できるかはコロナの動向次第ですが、準備だけはしておこうと思っています。

※今号は619号、偶然にも6月19日と重なりました。